

# 「花園のささら」(籠)



- 一、種類 郷土芸能 獅子舞(神楽舞) 北茨城市指定無形民俗文化財「花園のささら」
- 一、場所 北茨城市華川町花園五六七
- 一、起源 ささらの起源は古く、前九年の役(一〇五一年)、後三年の役(一〇八三年)の際、源頼義・義家親子が戦勝祈願のため奉納されたのが起源とされています。
- 一、内容 五月五日 花園神社の例大祭に五穀豊穡・子孫繁栄を祈願し奉納される。氏子にて毎年三人の回り世話人を置き、世話人が責任をもって演技の指導・練習をなし、五月五日当日行われる神楽渡御の折、供米演奏する獅子舞である。古くより行われ優雅にして野趣に富み古い型を伝えている。
- 一、獅子頭 現在の獅子頭は江戸時代末の当神社宮大工 大平右源太の作と伝えられ獅子頭にしてはかなり大きいものである。

## 一、概要

### ① 構成

- ① 獅子頭は親獅子・寄獅子・牝獅子の三頭からなる。  
(親獅子・寄獅子は角が三本で牝獅子は角が一本で各麻の黒色のコーガケを巻れる)
- ② スリ子(獅子頭を被り舞を踊る者)は三人。大体八才位(小学生高学年)から十五才位(中学生)迄の男児が選ばれ、衣装は華美な上衣に袖口は三重にし襟は黒トートンで五色の襟を掛け、手差・裁着袴に白足袋・わらじ履き。
- ③ 笛手は三人。六目(穴)横笛。衣装はセルの着流しに黄色の襟を肩から脇の下に斜めに掛け、裏笠を被り白足袋・草履を履く。
- ④ 太鼓手は二人。衣装は笛手と同様。太鼓を肩より紐で腹下に吊り両手で撥を持って叩く。太鼓の胴は布で装飾。
- ⑤ 旗持ちは四人。青竹に長さ一丈・巾一尺位の赤色・青色・黄色・白色の布を付ける。ささらの舞う場所をとって演奏の四方に立つ
- ⑥ 世話人は三人。ささらの一切の世話を負う。物品の購入・演奏中衣装直しの世話も務す。
- ⑦ 演奏 最初の宿(当番の宿)より行列の体型に道楽を持って神社に上がる。道中獅子は横隊にて歩む。演奏の際には曲目によってこの体型は自ずから変化する。

- 右 親獅子
- 中 牝獅子
- 左 寄獅子

### ② 曲目

- ・ワタリザウシ 最初宿より神社へ上がる時の道中囃子の曲。
- ・イリハ(イデハ)・ジダリヤナギ・フツカケ・ムキアイ・サンゾク三拍子・シヲリ・オカザ
- ・キ・シダリヤナギ・イリハの順に演奏、フツチャゲの曲目の笛に移って終わる。拝殿前・行宮前にて行う囃子の曲。
- ・フツチャゲ 神楽が渡御の道中にて行う囃子にて大太鼓が加わり荘厳優美な曲。
- ・ダンゴブシ 神楽の道中にて行う囃子の曲。
- ③ 歌詞 現在はない。明治末期頃までは太鼓手が唄っていた。その歌詞の一部を伝えるものに「まいりきて みわたせば しほうきりいし しろすなの おにはた おたちより」

## ③ 奉納

### ① 地区

花園氏子区域は三つのツボ(坪)にわかれ(御山・中坪・水沼)各坪一人の世話人が立つ

### ② ささらの宿替

祭礼の一週間前の四月二十八日の晩、前年のヤドから本年のヤドに移る式。ヤドは回り割にて、獅子頭をはじめ諸道具係の責任を負う。道中囃子にて新ヤドの当主の先導により新ヤドに着く。床の間に獅子頭を据え神燈をあげ御神酒をひらく。その夜スリ子・笛手・太鼓手を決定。

### ③ 笠揃え

翌日より練習をはじめ。中日と七日には御神酒をひらく。

### ④ 祭礼前日

(現在は五月三日)に至れば笠揃えと言ひ万端の用意を整えて御神酒をひらく